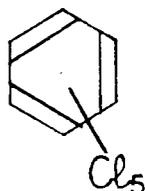


分解度試験報告書

1. 試料名      ポリクロルベンゼン  
 (ペンタクロルベンゼン)  
 (試料No K-11)

分子式       $C_6HCl_5$       分子量      250.34

構造式



同定性      赤外分光光度計 (付図-5参照)

性状

外観      白色結晶

沸点      275 ~ 277 °C      融点      86 °C  
 (共立出版：化学大辞典による)

純度      99%以上 (特級試薬使用)

溶解性

対水      120 ppb (TOC計による分析値)

対 n-ヘキサン, ベンゼン, クロロホルム      1%以上

2. 試験期間      昭和56年8月25日~昭和56年9月22日

3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号  
 薬 発 第 615 号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による  
 49 基 局 第 392 号 }

3.1 試験条件

(a) 生分解試験条件

- (1) 微生物源：標準活性汚泥 30 ppm
- (2) 供試物質濃度：100 ppm
- (3) 試験期間：28日間

(b) 試験装置

閉鎖系酸素消費量測定装置 標準型

(c) 試料の採取

供試物質は固体のため天秤で30.0mg精秤し各培養ビンに添加した

(d) BOD測定装置へのセット状況

	状 況	pH
仕 込 時	試料は溶解せず水面に浮いていた。	—
途 中	試料は溶解せず培養ビンの底に沈んでいた。	—
終 了 時	試料は溶解せず培養ビンの底に沈んでいた。	—

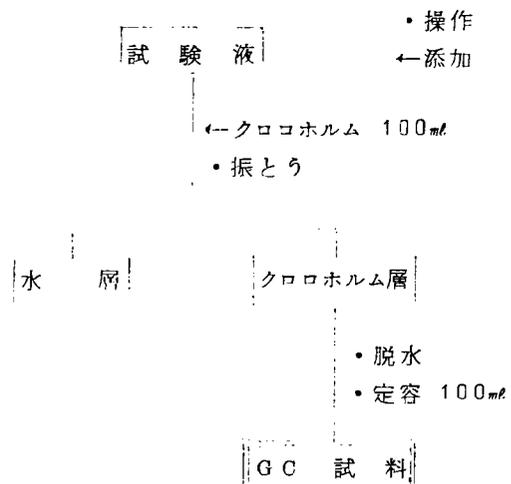
### 3.2 直接定量分析

#### (a) 使用分析機器及び条件

ガスクロマトグラフ

型 式 日立 163  
 検 出 器 FID  
 カ ラ ム 3 mm  $\phi$   $\times$  1 m ガラス  
 固 定 相  
 液 相 5% OV-225  
 担 体 クロモソルブW  
 カラム温度 130  $^{\circ}$ C  
 キヤリヤガス N<sub>2</sub>

#### (b) 分析試料の前処理



### 4. 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	0	1	
GCによる結果	0	2	1

7日目のアニリンの分解度 74%

以 上

図-1

No. ....

Date 8/25 ~ 9/22 1981

Test Temp. 25 °C

Model Coulometer No. \_\_\_\_\_

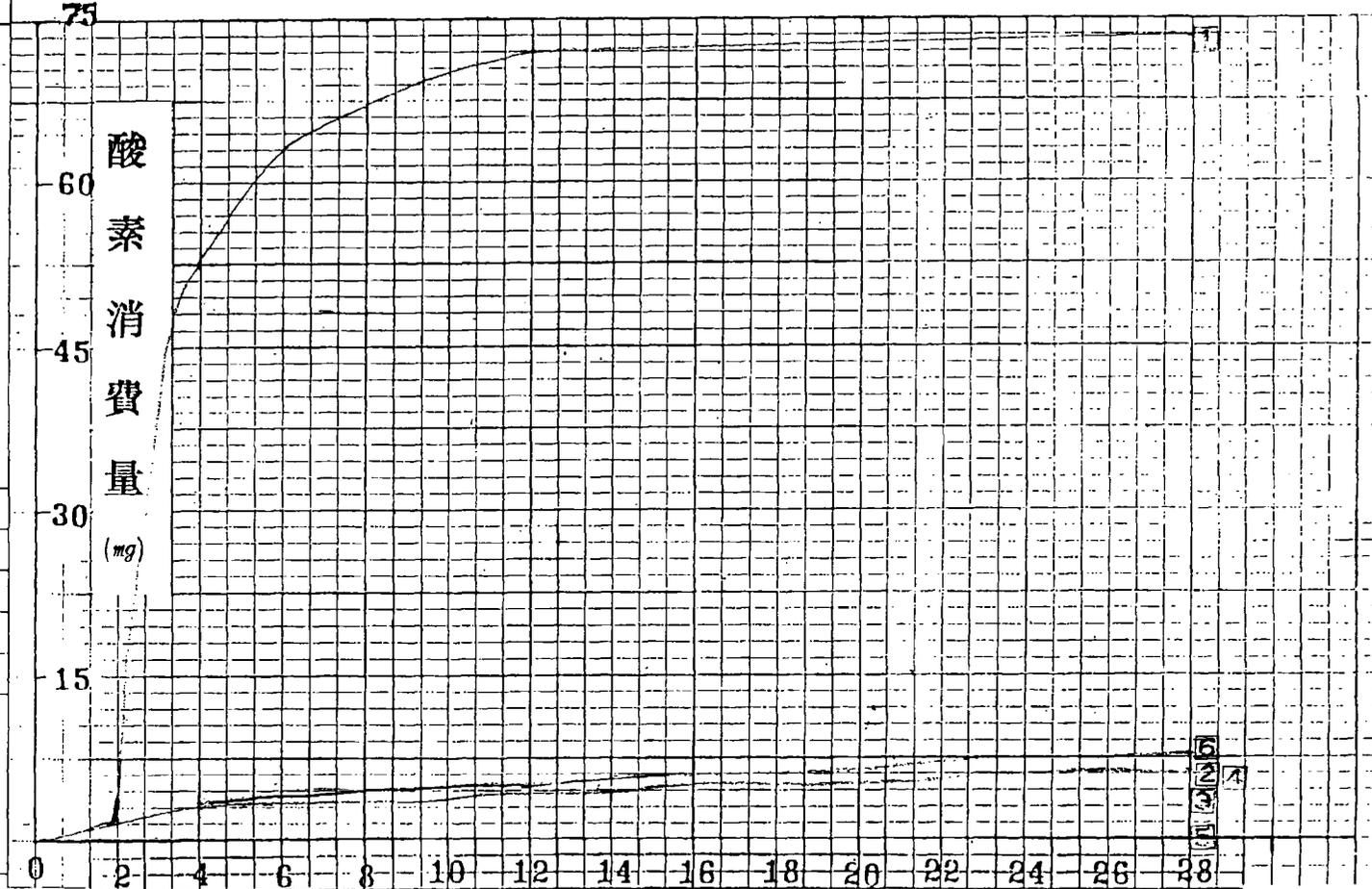
Range 250 ppm × 1

Chart Speed 2 mm/h

Sample	Sludge (ppm)
1 アニリン (100 ppm)	30
2 汚泥+試料 (100 ppm)	30
3 汚泥+試料 (100 ppm)	30
4 汚泥+試料 (100 ppm)	30
5 水+試料 (100 ppm)	—
6 基礎呼吸 (— ppm)	30

Note: K-11 アンチプロバレンセン

Operator \_\_\_\_\_



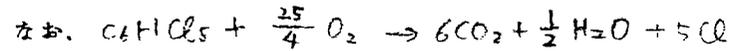
(財) 化学点検有協会化学点検安全センター

$$\text{分解度} = \frac{\text{BOD} - \text{B}}{\text{TOD}} \times 100 = \frac{-15}{24.0} \times 100 \Rightarrow 0\%$$

元だし

$$\text{BOD} - \text{B} = \frac{2 + 3 + 4}{3} - 6 = \frac{6.5 \text{ mg} + 6.5 \text{ mg} + 6.5 \text{ mg}}{3} - 8.0 \text{ mg} = -1.5$$

$$\text{TOD} = 30.0 \times 0.80 = 24.0$$



$$\frac{\frac{25}{4} \text{O}_2}{\text{C}_6\text{H}_5\text{Cl}_5} = \frac{200}{250.34} = 0.80$$

7日目のアニリンの分解度 74 %